小児慢性特定疾患のtotal careの役割とその具体的推進法に関する研究　昭和62年度総括研究報告

加藤　精彦

要約：本年度は、各班員の専門領域におけるtotal careの実態並びに関連施設での具体的問題点で報告すると共に、total careの今後の充実のためになすべき方策を指摘し、討論を行なった。更に小児慢性特定疾患のtotal careに関する全国アンケート調査を行ない、total careをどのように把え、どのように実践し、どこに現在問題点があるかの実態を明らかにすることが出来た。これらの調査結果を踏まえて、最終年度の具体的推進法について検討を行なった。

見出し語：トータルケアー、小児慢性特定疾患、心理療法士、メディカルソーシャルワーカー

本研究も２年目に入り、各班員の専門領域におけるtotal careのあり方について、従来の治療の一辺例の対応から脱却して、慢性疾患児の全生活面への配慮、特に心理・教育に留意した治療管理、在宅ケアー、訪問看護等の問題の具体的推進法を加味した、total careはどうあるべきかについて多くの検討がなされた。これに平行して小児慢性疾患のtotal careに関する全国アンケート調査を 300床以上の病院 756施設に依頼し、 320施設から熱心な回答を得て、total careをどのようにとらえ、どのような方法で実践し、どこに現在問題点があるかを分析することができたが、多くの施設がtotal careの必要性を実感し、しかし実践する上での多くの克服しなければならない問題を抱えていることも判明した。

北川班員らは慢性腎疾患者および先天性代謝異常疾患者におけるtotal careとその問題点について、外来患者の臨床的管理と学校における生活とを踏まえて、全人的な管理の問題点の解決が今後の課題であることを報告した。

山下班員らは、悪性腫瘍と血液病の際の全人的多面的total careにおける親の会の役割についてその具体的な貢献が、親－医療者間の良いパイプ役を果たし乍ら機能していることを認めると共に、前年度開発したtotal care度チェックシステムを応用しての関連施設での応用が、今後どう改善

山梨医科大学小児科学教室
Department of Pediatrics, Yamanashi Medical College

されていくべきかの具体的資料になることを確認した。

諏訪班員らは難治性慢性疾患で気道内分泌物過剰のため吸引器を必要とする小児の在宅吸引器使用状況を分析し、具体的な貸し出し実態とその問題点について報告し、今後その管理、修理、貸出期間などの検討すべき課題について報告した。

石井班員らは長期療養児への治療教育的対応を考察し、環境や日常生活条件への適応度の調査から、病弱なしかも家庭から分離させられて他律的な生活環境にあって、自尊感情も低く、自己統制の出来なくなった子供達への治療教育的な配慮が不可欠であり、日頃の親密な生活のcareが重要であることが強調された。

関班員らは小児てんかんにおける学校社会適応と長期発作予後に就いて報告し、約 1/4に長期発作存続が認められ、また約 1/3に学校や社会適応上の問題のあることが明らかとなった。

更に加藤班員らは器質的疾患が否定されたが心理的careの必要な患児や、慢性疾患を有する患児の心理的治療も必要な患児の治療に当っては、患児が生活する学校や地域社会と病院の機能が連携して活動していくことが重要であることを報告した。また精神衛生健康診断検査のひとつとしてカウンセラーによる問診の結果、普通に生活し、通学している小児のなかにも、まだ病院にかからねばならない程ではないが、精神の健康バランスを崩しかけている子供がいることに気づいた。同時に行なった母と子の田研式親子関係診断テストから、母子関係に２型の葛藤がみられ、すれ違い葛藤型に、不安・厳格・溺愛の傾向の強いことが示された。

以上、班員の研究結果や全国アンケート調査から特に以下の諸点が、今後の具体的実践或いは推進に当って留意せねばならない事項であろう。

１、小児慢性疾患の約35%は今回回答のあった全国病院で治療管理を受けていると思われているが、その内で、悪性新生物喘息等に問題が生じ易く、その対応は単に専門治療のみでなく、親子・家族はじめ対人関係、種々の心理面、社会福祉面を中心とした全生活面での総合的careの重要性が指摘出来、多くの専門職、ボランティアの人々の理解と協力、時にはホスピスにおける人生終幕の厳粛な時を迎える際のあり方に就いても考えねばならないと思われる。

２、子供の病気が長期に亘ることから生ずる家庭内の問題、次第に長ずることによる病気や人生に対する不安・葛藤・焦燥など精神的問題に、心の支えとなるコメディカル、ソーシャル・ワーカー、心理療法士、（サイコセラピスト）などの相談員の充実が急務であり、コメディカルスタッフの協力が不可欠であることが痛感される。

３、現在total careを実践しつつある医師は、個人的に積極的に実践している場合が多いが、病院或いは組織として体制が整っている場合は少なく、行政面を含めて、各方面のスタッフや設備の整備されている体制はほとんどなく、今後心理療法室、学習設備室、デイケアールームをはじめ、単に治療のみでなく、同時に子供達の生活の場としての空間を広げることが人員の充実と共に必要であることが強調される。

小児慢性疾患々児の診断・治療の充実はいう迄もないが、それ以外に精神的、社会的問題を多く抱えており、total careの必要性は多くの小児科

医が痛切に実感している事が判り、更にtotal careの充実発展を期するための隘路の除去を含めて具体的推進法を来年度を期して最終的に完成させる予定である。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:本年度は、各班員の専門領域における total care の実態並びに関連施設での具体的問題点で報告すると共に、total care の今後の充実のためになすべき方策を指摘し、討論を行なった。更に小児慢性特定疾患の total care に関する全国アンケート調査を行ない、totalcare をどのように把え、どのように実践し、どこに現在問題点があるかの実態を明らかにすることが出来た。これらの調査結果を踏まえて、最終年度の具体的推進法について検討を行なった。